



児童自ら学びを深める算数科授業の創造～一斉授業を軸とした協働的な学びや個別(最適)な学びの取組を通して～

「挑戦と創造」学び深く 志高く 未来を拓く

研修だより

令和8年9月1日

世羅町立せらびがし小学校

No.12

「子ども目線」で変わる授業づくり

8月7日(金)、筑波大学附属小学校算数部の田中英海先生をお招きし、「日常の探究と算数科の探究の両輪を回す授業」に向けた指導の工夫について学びました。

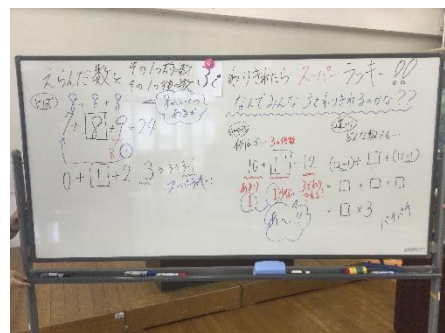
児童の「困り感」や既習事項との違いを起点に、どのように児童と寄り添いながら「本時のめあて」を提示・構築していくか、具体的な場面を想定しながら深めることができました。



1. 模擬授業を活用した効果的な校内研修

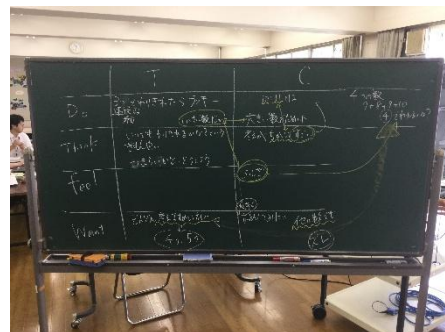
研修では、模擬授業後に児童と教師双方の目線から、以下の4つの視点で授業を分析する手法をご提示いただきました。

- ・ Do (したこと)
- ・ Think (考えたこと)
- ・ Feel (感じたこと)
- ・ Want (やりたかったこと)



児童と教師の「思いのずれ」を可視化し、それを埋めるためにどのような手立てが必要だったかを検証する実践的な手法です。

また、今回は田中先生ご自身にも模擬授業を行っていただきました。「選んだ数と、その前の数・後の数を足して3で割り切れたらスーパーラッキー！」という課題を通し、児童の気付きや発見をどのように広げ・深めていくか、具体的な価値付けや声掛けのポイントを学ぶことができました。



2. 「指導案作成者」と「授業者」を分ける新しい試み

今回の模擬授業では、指導案を作成した者とは別の教員が授業者を務めるという手法も教えていただきました。

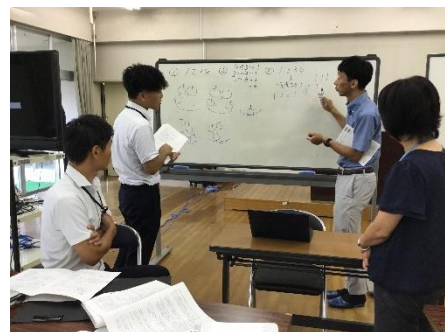
自分が作成した指導案を第三者が実践することで、作成時には見落としがちだった児童の困り感やまずきが鮮明になり、より客観的な授業改善へとつながることを実感できました。全教職員が共通の目標に向かって多角的に議論できる、非常に有効な方法でした。



3. 各学年に寄り添った具体的なアドバイス

研修の最後には、各学年の授業者からの悩みや「めあて」に至る導線の作り方など、学年の実情に応じた丁寧なご助言をいただきました。

田中先生、ご多忙の中、ご指導をいただき本当にありがとうございました。



2学期に向けた共通取組事項

4月に提案させていただいた内容について、改めて確認し、2学期以降の授業に生かしていただければと思います。

1. 板書と児童の「きらりノート」の取組(研修だより No.2 より)

②児童の困り感や課題を共有

①問題提示

③めあての設定
子供の思考に沿った言葉で
赤色のマグネットシートに書く。

⑤まとめ
青色で囲む。

④個別の時間・協働の時間
まとめに繋がるキーワードを板書に残す。

⑥ふりかえる

②児童の困り感や課題を共有

①問題提示

③めあての設定
赤鉛筆で囲む。

④協働の時間

⑤まとめ
板書のキーワードをもとに自分の言葉でまとめ、青鉛筆で囲む。

⑥ふりかえる
ふりかえりの視点をもちにふりかえる。

2. 学力向上のための取組(研修だより No.1 より)

(1) パワーアップ読み上げ計算ワークシート

取り組む場面・・・算数の授業の導入、チャレンジタイム(朝会時間)、日々の音読に取り入れる等

(2) 朝学プリント計算

取り組む場面・・・チャレンジタイム(朝会時間)

3. 教師のファシリテートについて(研修だより No.5 より)

算数の世界を広げる子どもの育成 「既習事項・経験から 算数を(創る)」

(1) 大事な見方・考え方、発見させたい数学的な見方・考え方を(教師が言わない)

(2) (既習) とのつながり、発見をほめる
(よさ) に気付かせる 言語化させる } そのために観る

【算数の授業・学習における教師の役割】

- ① (児童の困り感・既習との違い) をめあてにする
- ② 見方・考え方を引き出す (どうしてそうなる? どうしてそう考えたの?)
- ③ (よさ) を価値づける (そうすると、いいことは?)
- ④ (統合) 的・(発展) 的に考える視点 (今までと似ているところは? 同じ考え方だね。)

